

平成26年度収入支出決算

1. 平成26年度決算概況【一般勘定】

(1) 収支概況

☆経常収支(健康保険組合の基礎的収支)

(百万円)

経常収入	経常支出	経常損益
4,628	4,271	357

平成25年度経常損益
133

前年度比 +96 Δ128 +224

☆経常外収支(調整保険料等や現預金を伴わない繰入金・繰越金等)

(百万円)

経常外収入	経常外支出	損益
258	73	185

前年度比 Δ57 Δ2 Δ55

☆総収支(経常外を含む)

(百万円)

収入	支出	決算残金
4,886	4,344	542

平成25年度決算残金
373

前年度比 +39 Δ130 +169

■ H26年度の経常損益(企業の「営業利益」相当)は、前年同様に高齢者納付金/支援金が前々年度分概算算定額の精算戻しの影響で一時的に減少したため、前年度に比べ+2.2億円の3.6億円となりました。

【経常損益の推移】

H21→H22→H23→H24→H25→H26

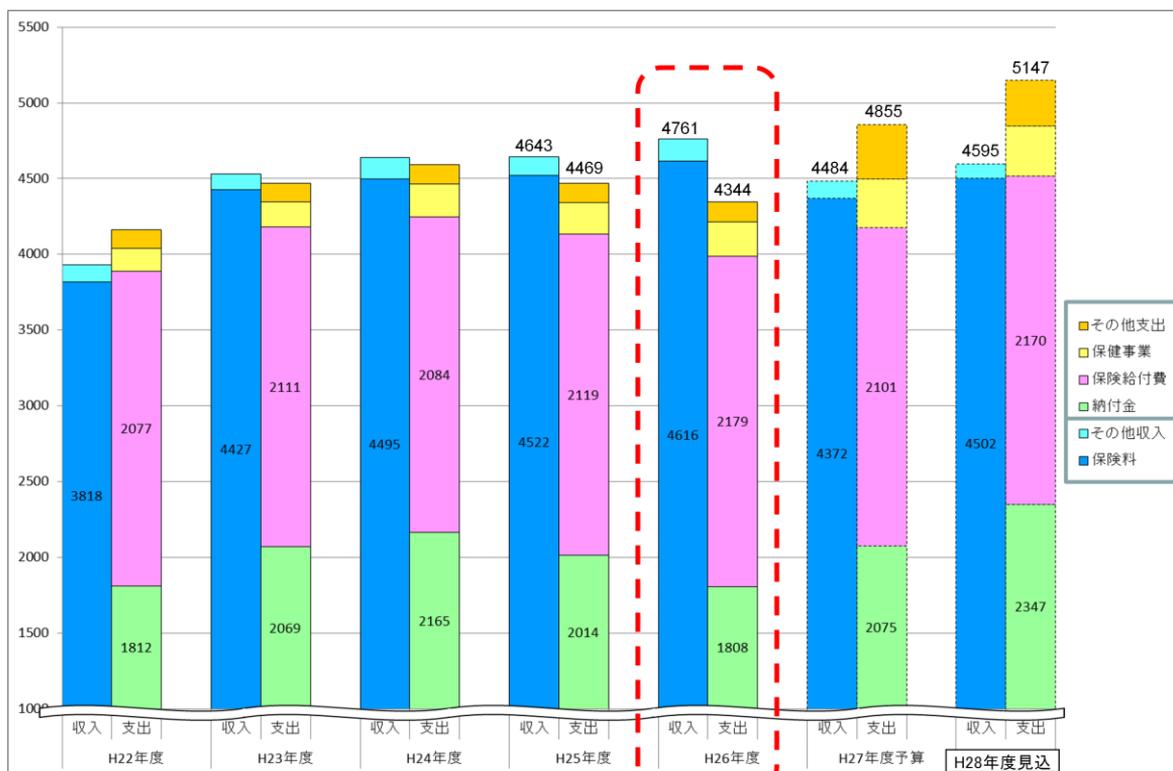
0 ▲270 35 ▲13 133 357百万円

■ 経常外収入には、現預金を伴わない前年度繰越金1.25億円を含んでいます。

■ 経常、経常外ともプラスであったことから、収入支出差額の決算残金は、昨年度を1.7億円上回る5.4億円となりました。

平成26年度収入支出決算

(2) 健保組合概況推移及び予算・見込 (H22～H28)

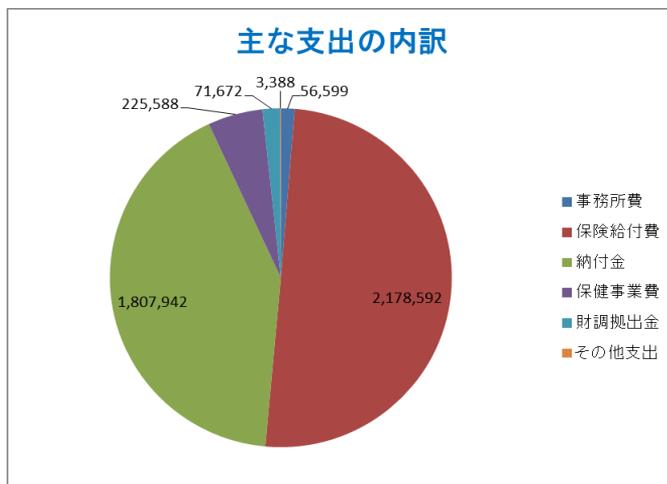


■ 収入／支出の推移で見ると、保険料率を引き上げたH23年度から4年間、収入が支出を上回って推移しています。

■ H26の実際総収入額（経常収入に、経常外の実キャッシュのある調整保険料、交付金等を加えた収入額）は、平均被保険者数が8281名と前年度から31名減少したが、賞与からの一般保険料の増加により前年度より+1.2億円の増加となりました。

■ H26の総支出は、療養給付費を主因に保険給付費が前年度比0.6億円増加しましたが、高齢者納付金／支援金が、厚労省算定の前々年度分概算額の精算戻し額▲2億円により一時的に大幅減となったことで、前年度比▲1.3億円減少しました。加入員の高齢化に伴い、保険給付費は増加傾向にあり、ここ5年間では年平均で2.2%の増加を示しています。

■ 今年度H27は、納付金／支援金が法改正により大幅増加となることにより、実質収支はマイナスに転じますが、法定準備金の余剰額を取り崩して繰り入れることで収支は均衡できる見込みです。



2. 平成26年度決算概況【介護勘定】

(1) 収支概況

			(百万円)
収入	支出	決算残金	平成25年度 決算残金
602	530	72.4	108

(2) 収入・支出状況

- 介護保険料収入は602百万円となり、保険料率を1/1000 引き下げたことで前年度比14百万円の減少となりました。
- 介護保険料支出は530百万円となり、前年度比22百万円の増加となりました。
- この結果、H26年度介護勘定は72百万円の決算残金となりました。

平成26年度収入支出決算

3. 平成26年度決算【残金処分】

(一般)		(千円)
収入決算額		4,885,795
支出決算額		4,343,781
決算残金額		542,014
決算 残金 処分 予定 額	法定準備金	0
	繰越金	0
	別途積立金	541,464
	財政調整事業繰越金	550

(介護)		(千円)
収入決算額		602,177
支出決算額		529,783
決算残金額		72,393
決算 残金 処分 予定 額	法定準備金	72,393
	繰越金	0

■ 一般勘定については、法定準備金が法定保有率の216%の水準に積み上がっているため、決算残金542百万円の全額を別途積立金に積み立てることとしました。

■ この結果、別途積立金残高も1,058百万円と大きく積み上がり、次年度以降の前期高齢者給付費の急増や後期高齢者支援金の総報酬割合引き上げ等による納付金／支援金の負担増加に対するバッファといたします。

■ 介護勘定の決算残金72百万円も、全額法定準備金に積み立てることとし、この結果、準備金残高は194百万円となり、同様に今後の負担増加に備えることとしました。